

パンタール通信

南北米福地開発協会

会報

2010年5月1日

80号



一年六カ月後(2010年3月)

二〇〇八年九月、第八回国際青年奉仕隊の奉仕活動としてアルトパラグアイ州、エスペランサ村への二ームの植樹を行いました。

三〇cmほどの苗木を植え、すでに写真で見える如く予想以上に成長し、村人も驚いております。今はメイン通りや学校の敷地だけでなく、エスペランサ村の各家の庭にも植えられるようになりました。

港から陸に上がると港から村に入るメイン道路に現地では見慣れない緑豊かな葉を茂らせている樹に船で行き来する近隣の村の人々も興味を持ち、出来れば自分の村でも二ームの樹を植えたいとレダの実験農場で育てている二ームの苗木を取りに来る人が増えて来ています。

村の樹の植林は村の歴史で初めての試みでしたが、樹の成長を見、広漠とした村の景観が変わり、魅力ある村に変身しており、樹に果実が実るようになって、鳥が多く飛来するようにただでなく、直射日光から土壌が守られ、新たな農業を始める可能性が出て来ました。現地の南北米福地財団はレダ近くの三つの村に継続的な支援をなし、村おこしをする計画です。



一年後(2009年9月)



三ヶ月後(2008年11月)

インディヒナの村への今後の支援活動



レダ開発を始めて翌年から近隣の三つの村への奉仕活動を日本、アメリカからの学生、青年を組織し行ってきました。始めは村の発展のためには未来のため、設を成し、一昨年から村の環境整備のため、植林活動をなしました。現在はレダで家庭用水の浄水を研究し、近々インディヒナの村の家庭にも設置をする計画です。今でも川の水を浄水もせず、直接飲んでいきます。

そのため、病気が発生することも多くなっているのが問題です。簡易浄水器づくりに挑戦、日本で柴沼先生が、インディヒナの村でも使えるような簡単な浄水装置を作るようにと色々な資料を提供されながら強調されましたので、レダでモリンガの種のパウダーが持っている水の浄化作用を利用して作ってみようと挑戦しています。まず、砂利と砂、炭を小さいバケツ一杯に入れて洗浄し、下に蛇口のついた大型飲料容器に順番に入れてフィルターとしました。

そこにモリンガのパウダーで濁りを分離した水を入れて飲料水として使おうと思っています。

モリンガでの浄水を試みているのは、モリンガがインド原産の樹で、チャコ地方の土地と気候に適し成長することが既にレダでの植林ですでに証明されているからです。モリンガの実に含まれている要素が水の中に含まれている汚れを吸着するので、川の水や雨水の汚れを取る事が出来ます。そのため、レダでの浄水に成功すれば、インディヒナの村にモリンガの樹を植え、その実で浄水できる事を村の人に理解して貰い、お金がかからない方法での水作りを成せるように伊達研究員が挑戦しています。



モリンガは水を浄化するために用いられるだけでなく、開発途上国の健康維持のためにも大きく貢献出来る素晴らしい樹です。何年前か、アメリカのデスカバリーチャンネルでモリンガの効用を放映しておりました。アフリカ、セネガルでモリンガを栄養補強として用いているとの内容でした。放映された内容を文書で現すと左記のようです。関心のある方は事務局に映像がありますのでお尋ねください。

『栄養失調で死ぬ寸前だった子供は 野生の植物に救われました。』

最近までセネガルでは 赤痢や黄熱 栄養失調などで大勢の子供が死亡していました。特に栄養失調は深刻です。チャーチ・ワールド・サービスのL・フュグリーは現状をこう語ります。西アフリカには五歳までに子供の二五%が栄養失調で死亡している国もあります。

また世界各地で毎年五〇万人の 子供が視力を失っています。一日に二〇〜三〇人の子供を 診察します。T・サコーは 小児診療所を運営しています。

栄養失調児は以前よりはるかに減少しました。

その理由は『奇跡の木』にあります。『モリンガ』です。モリンガは栄養を豊富に含んだ植物です。

この樹木の葉に含まれる鉄分は ホウレンソウの三倍、ビタミンAはニンジン の四倍 カルシウムは牛乳の四倍各種のアミノ酸も含まれています。

モリンガは葉や実、種ばかりか花さえ食べられます。種は高品質の油になります。その中身を粉にすれば浄水にも役立ちます。

世界中の大学や企業、財団などがその活用法を研究しています。例えばアンドリユー・W・メロン財団や米国地理学協会全米科学財団などです。

セネガルではすでにモリンガは人々の生死を左右するほどの存在です。二年前この子供は栄養失調でがい骨のようにやせていました。母親もこの子は死ぬかと思つたほどです。しかしモリンガによってこんなに健康になりました。

栄養失調児が診療に訪れるとまず体重を測ったり 検温をしたりします。

その後は定期的に 健康診断をしています。モリンガは栄養不足を改善するばかりか多くの病気に効くことも分かりました。

フュグリーは その普及に努めています。実験的にセネガルで プロジェクトを行っています (Lowell Fuglie Church World Service)

村人にモリンガの栽培法や 食べ方を教えているのです。このプロジェクトを通じてモリンガが栄養失調を防ぐための有効な手段である事を広めています。

この一家は日常的にモリンガを食べています。野菜を育てるように モリンガを栽培しています。収穫した葉は 水洗いして乾燥させます。

そして すりつぶします。子供も手伝います。最後には今夜の夕食の薬味です。

モリンガは不毛の土地でも 育つと言われています。モリンガの根を折るとこのように水分がたっぷり含まれています。

そのおかげで乾期を乗り切り成木になれるわけです。

モリンガには 水を浄化する作用もあります。残念ながら熱帯地方は水に恵まれていません。安心して飲める清浄な水があまりないのです。

レスター大学では種子に関する研究が行われています。種子に浄水作用があると考えているのです。

マラウイ共和国の ある村にはこの種子を使った大規模な浄化施設があります。

驚きますよ。子供であれば一日に大さじ三杯の粉で十分です。ビタミンは必要量の3倍も含まれ鉄やカルシウム 各種アミノ酸も入っています。もう栄養失調の治療を 外国の物資に頼らずに済みます。(別紙に続く)

レダ近況(伊達報告)二月二十九日

久しぶりにレダからの情報をお送りします。

中田先生を中心に、中井先生、大山先生だけの状態が暫く続きましたが、

三月二十二日に、車で大和田先生、古市君、伊達がレダに入り、活力を復帰したレダです。

三か月半ぶりに見た第一農場は、とても様変わりし、すっかりときれいに整備されていました。

花壇の花が大きく育ち、生簀の周りが新しいコンクリート板で敷かれ、スイートソルゴの二番手が

高く伸び、アスパラガスが育ち、生き残った一個のやむ芋が見事に成長した姿は感動的でした。

野菜畑もトラクターで草刈りできる状態に整備されて効率的になりました。さすが食べきれない

ほどずすなりになっています。きゅうりやかぼちゃ、オクラ、トマトなども良くなりました。



チェスナッツの苗

中田先生がアマゾンから持って帰られたナッツの種の中で、チェスナッツがとても成長がよく五十数個のポットのほとんどから大きく苗木が育つ

ていて、現在、古市君がそれらの植え付けを行っています。また、木の成長は根が一番問題だと各地

で聞かされた中田先生は、パラグアイの大苗木会社で見つけた

直根を育てる指サックのような小型ポットが大量に入ったセットを購入されました。

ニームなどの苗木を育てるのに使おうとされています。

牛は現在五百三十頭、豚は四十六頭います。特に豚は昨年九月に十頭から出発しましたから半年

で約五倍になりました。現在二箇所に分けて飼育しています。食欲旺盛

で、子豚たちも走り回って餌を探し食べています。百ヘクタールでは、ソルゴが雑草をよせつけない

い程、旺盛な成長ぶりです。水が入っても枯れなく、穂先をポットで切って集めればよいので、収穫も

簡単。豚が好んで食べ、栄養価も高く、今後ソルゴを大量に栽培して飼料にしようとしています。



直根の苗木を育てる
プラスチックポット
1テーブルに1120本の
苗木を育てられる。

第10回国際協力青年ボランティア隊隊員募集 (2010年8月25日-9月10日)

南北米福地開発協会では、日本の若き青年指導者たちが、海外における奉仕活動やグローバルな体験を通して、社会奉仕や異文化を学ぶ機会を提供するとともに、南米、パンタナール地域のインディヒナの子供たちの教育向上に毎年、国際協力青年ボランティアを行って来ました。

今年は当協会で学校を建設したインディヒナマヨ村の学校環境の向上のため、学校の周囲に樹を植える植樹作業と学校修復ならびに教育資材の支援、そしてボリビア国境に近いバイアネグラ市において現地の学生とともに市の植樹活動を行うことになりました。日本からの青年学生の参加者は8-10名を送る計画です。ふるってご参加ください。

下記にある募集要綱を必要な方は事務局に連絡ください。



パンタナールの3月から4月は雨季の暑い夏が終わり、朝晩は涼しさを覚える秋の気候に変化して行く。そんな中レダの庭にはボラーチョの花がご覧のように気品あるピンクの花を咲かせ、小さな蜂鳥が、長いくちばしを上手に花の奥にまで差し込み蜜を吸いながら、忙しく花から花へ飛びまわって行きます。(飯野記)

第10回国際青年奉仕隊

支援のお願い

支援金のみならず未使用のはがき、切手、テレフォンカード、印紙も集めています。

支援金の場合、送付は下記の口座にお願いします。

郵便口座 南北米福地開発協会 代表 柴沼邦彦
口座番号 10180-77680471

又は 南北米福地開発協会 柴沼邦彦宛 現金書留で
ハガキ、切手等は

住所 郵便番号213-0001

神奈川県川崎市溝口3-11-15

岩崎ビル4F 南北米福地開発協会宛て

電話044-829-2821

地球家族として
自然を守りましょう

南北米福地開発
協会会員の募集

南米、パラグアイパンタ
ナール地域へのエコツアー
ならびに植林活動を通じて
生態系の維持と強化を促進し、
その地域をモデルとし、
世界に環境保護の
大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、
パンタナール通信を送ります。
また、
各種のセミナー、エコツアー
等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

岩崎ビル4F

電話

〇四四-八二九-二八二二

Fax

八二九-二八二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八

〇一七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL office@asd-nsa.jp

ホームページ

http://www.asd-nsa.jp